

水の一瞬をとらえる

角館町出身の写真家・草薙裕さん
写真展が開幕



撮影にまつわるエピソードを交えながら作品を説明する草薙さん。



展示は、館内の3分の2のスペースを使用。この機会に草薙さんの作品をぜひご覧ください。

7月2日、角館町出身の写真家・草薙裕さん（秋田公立美術大学大学院助手）の企画展「草薙裕写真展―流転の水系―」が角館町平福記念美術館で開幕し、オープニングセレモニーが行われました。

写真展では、仙北市を流れる玉川や抱返り溪谷、田沢湖などの水流や自然などを高速シャッターで切り取り、肉眼ではみることができない一瞬の美しさを捉えた作品など113点が展示されています。

オープニングセレモニー

出席した草薙さんは「小学校の時に作った陶芸の作品がコンクールで賞をもらい、この美術館に飾られたのがとてもうれしかった。思い出深いこの場所で展示できて身が引き締まる思い」と話しました。

セレモニー後には草薙さんが来館者に展示作品を説明。最後に草薙さんは「今回の展示は水をテーマにこれまで撮ってきた集大成と考えている。これからも秋田の土地に根ざしてテーマを掘り下げ、深めていきたい」と語ってくれました。



企画展「草薙裕写真展 一流転の水系―」
会期 8月25日(日)まで ※会期中無休
時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
入館料 一般（高校生以上）300円、小人（中学生以下）200円 ※仙北市民は無料
問合せ 角館町平福記念美術館 ☎ 54-3888

「エスディーゼーゼー」SDGs「って知ってますか？」



これが17の目標！

SDGs = Sustainable Development Goals
日本語だと・・・「持続可能な開発目標」

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標から構成されており、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



SDGs 未来都市に

平成30年6月、国連が定める「SDGs」の達成に向けた優れた取組を提案した自治体として、仙北市が「SDGs未来都市」に選定されました。

まちづくりの基本理念

仙北市は「第2次仙北市総合計画」のまちづくりの基本理念「健やかに美しく輝くまち」のもと、市民と行政が協働しつつ、誰もが安心して住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでいます。

SDGsと市総合計画

両者の目標や取組は重なるもので、SDGs達成の考え方を活用することは、総合計画を推し進めることにもつながります。

SDGsの取組の加速

地域課題である人口減少や少子高齢化を解決し、若い世代が定住できるような雇用の創出や健康寿命の延伸など、すべての市民が健やかに安心して暮らせるまちづくりを加速化していきます。

シンポジウムが開催されました

6月29日、角館榊細工伝承館で仙北市SDGs・ユニバーサルシンポジウムが開催されました。

はじめに、日本ユニバーサルマナー協会理事の岸田ひろ美さんがユニバーサルマナーから考えるまちづくりをテーマに、温泉ジャーナリストの山崎まゆみさんがバリアフリー旅館をテーマにそれぞれ講演を行いました。また、内閣府地方創生推進事務局参事官補佐の清水拓哉さんが地方創生に向けたSDGsの推進について講演しました。

その後行われたパネルディスカッションには、仙北市男女共同参画推進委員会会長の坂本佐穂さん、仙北市商工会副会長の田口知明さん、慶應義塾大学大学院教授の岸博幸さん、門脇市長が出席、「SDGs・持続可能なまちづくり」をテーマに様々な意見交換が行われました。その中で坂本

さんは「SDGsが達成されたときみんなが笑顔、嬉しい気持ちになれる。そのために一人ひとりが小さいことでも意識して行動することが大切」と、田口さんは「先代から引き継がれたバトンを次の世代に渡して、持続可能な都市を目指していきたい」と話しました。

シンポジウムの最後には吉本興業所属のタレント4組によるSDGsをテーマにしたネタが披露され、会場を沸かせました。



仙北市はSDGsの取組を進めていきます。

第13回

大仙・仙北・美郷畜産共進会

7月2日、大仙市神岡・ささくら公園で、第13回大仙・仙北・美郷畜産共進会が開催され、田沢湖小松の小原洋一さんの「かなこ号」が、第1部（肉用牛の部）第3類（若雌の2）で優等賞を受賞し、肉用牛の部で秋田県知事賞を受賞しました。また、第2類（若雌の1）で、角館町広久内の高橋芳弘さんの「くにたかよし号」が優等賞1席、角館町白岩の相馬勲さんの「におう351号」が優等賞2席を受賞したほか、第4類（若雌の3）では、角館町蘆田の菅原孝作さんの「そのだ174号」が優等賞を受賞、仙北市角館が総合得点で準優勝を獲得しました。市内からは、9農家、15頭が出陳し、うち10頭が上位入賞を果たしました。

成績は次のとおりです。（敬称略）

第1部 肉用牛 秋田県知事賞 かなこ号 小原洋一（田沢湖） 第1類（育成雌）1等賞1席 かつこ号 伊藤一彦（西木） 第2類（若雌の1） 優等賞1席 くにたかよし号 高橋芳弘（角館）・優等賞2席 におう351号 相馬勲（角館）・2等賞2席 いたや33号 高橋政敏（田沢湖） 第3類（若雌の2） 優等賞 かなこ号 小原洋一（田沢湖） 1等賞 そのだ178号 菅原孝作（角館）・2等賞 そのだ179号 菅原孝作（角館） 第4類（若雌の3） 優等賞 そのだ174号 菅原孝作（角館） 第3部 肥育牛 2等賞4席 照茂勝号 伊藤則夫（西木）・2等賞5席 本藤号 伊藤則夫（西木）



肉用牛の部で秋田県知事賞を受賞した小原洋一さんの「かなこ号」。

6月27日、秋田県社会福祉会館で開催された秋田県納税貯蓄組合連合会定時総会で、同連合会会長から浅利重昭さんが表彰されました。浅利さんは、多年にわたり仙北市納税貯蓄組合連合会副会長として、納税思想の高揚や租税教育推進にご尽力されたことが認められて今回の受賞となりました。

また、戸狩野納税貯蓄組合（能美まるみ組合長）、田町下丁納税貯蓄組合（千葉一明組合長）、小滝納税貯蓄組合（田村勲組合長）が、納税成績向上への功績が顕著な団体として表彰されました。

秋田県納税貯蓄組合連合会 会長表彰を受賞



小滝納税貯蓄組合の田村勲組合長（左）が会長表彰を受賞した浅利さん（中央）に報告に訪れました。仙北市納税貯蓄組合連合会の高橋達会長（右）も同席していました。

インターネットの安心・安全な利用を啓発

千葉薫さんに感謝状



熊谷教育長（左）に報告に訪れた千葉さん（右）。

子どもたちの安心安全なインターネット利用に向けた啓発活動「e-ネットキャラバン」で講演を広く行ってきた千葉薫さんに同活動を運営する一般財団法人マルチメディア振興センターから感謝状が贈呈されました。

e-ネットキャラバンは、保護者や学校の教職員、児童生徒を対象に子どもに迫るネット上の危険の実態や特徴などを講座・ガイダンスするもので、千葉さんはその認定講師として10年以

上活動を続けてきました。

7月1日、熊谷教育長に報告に訪れた千葉さんは「インターネット上でのちょっとした書き込みで精神的に追い込まれたり、トラブルに巻き込まれたりする。子どもたちや保護者にインターネットの安全な利用を伝えることで犯罪やトラブルを一つでもなくしたい。さらにこの活動を知ってもらい、協力してくれる人が増えてくれれば」と話しました。

日頃の訓練成果を競い合う 仙北市消防訓練大会

6月30日、仙北市消防訓練大会が落合運動公園駐車場で会場に行われました。

市内の消防団10分団から、小型ポンプ操法の部に21チーム、規律訓練の部に7チームが出場し、日頃の訓練の成果を競い合いました。開始当初小雨だった天候は徐々に回復、団員は一つひとつの動作を正確に素早く行っていました。

各部門の上位3チームは7月13日に大仙市で行われた大仙・仙北・美郷支部消防訓練大会に出場しました。



機敏な動きで消火活動を競い合った小型ポンプ操法。



息のあった動きをみせた規律訓練。

- ▼主な成績は次のとおりです。（敬称略）
- 小型ポンプ操法の部**
- 優勝 第4分団1班（神代地区）
 - 準優勝 第5分団2班（西明寺地区）
 - 第3位 第4分団3班（神代地区）
- 規律訓練の部**
- 優勝 第9分団（雲沢地区）
 - 準優勝 第10分団（中川地区）
 - 第3位 第1分団（田沢・高野・高原地区）
- 個人賞（小型ポンプ）**
- 指揮者 大石 望（第4分団3班）
 - 1番員 工藤 周（第4分団1班）
 - 2番員 門脇良太（第6分団1班）
 - 3番員 蘭藤道雄（第5分団2班）

秋田県で1番速い小学5年生 女子5年100mで優勝



左から、門脇市長、戸嶋和人教頭、武藤桜南さん、熊谷教育長。

6月30日、秋田県宮陸上競技場で行われた2019年度秋田県少年少女陸上競技大会兼第35回全国小学生陸上競技交流大会秋田県予選会の女子5年100mで鈴木内小学校の武藤桜南さんが優勝しました。

8月9日・10日に神奈川県横浜市の日産スタジアムで行われる第35回全国小学生陸上競技交流大会に出場します。

武藤さんは普段はスポーツ少年団の野球でセンターを守るかわら、週2回陸上の練習をしています。「少し緊張した。決勝で速い人が2人いて少し不安だったけど、コーチや先生に『気持ちよく走れ』といわれたから大丈夫だった。全国では、後半が好きなのでスピードをあげて13秒97よりも早く走りたい」と話しました。

市長のまちづくり No.154 日記

『勝者のいない戦略』

仙北市長 門脇 光浩

市の会議も全国のセミナーも、そして私たちの身の回りでも、もっと「人口減少社会をどう生きるか」を考える場面に必要ではないでしょうか。先日、全国市長会の地方分権・行政委員会に参加して、本当に拍子抜けしました。だって現状の人口規模をベースに課題解決策を議論しても、向こう20年の中は一変することが見えているのですから…。もちろん「今をどう生きる」は最重要で、その対策こそ急がなければなりません。今を疎かにすることは、好ましい明日を遠ざけることに繋がります。

ところで、河合雅司さん（人口減少対策総合研究所理事長）は、その著書「未来の地図帳（講談社現代新書）」で、次のような指摘をしています。

「そもそも改元は、これまでもそうでしたが、多くは国難を打開するために行われてきました。しかし平成は少子化を傍観してしまいました。令和は国難といえる少子高齢化に立ち向かう時代になればなりません。平成17年の厚生労働省・人口動態統計で、日本が人口減少国に転じたことが明らかになりました。で

も河合さん自身も、また国も、対策議論を展開できなかったことを悔いているようです。さらに同書では、「今後の人口減少は2段階でやって来ます。その境界線が2043年です。2043年の前は若者が減少しても高齢者は増える人口減少、それ以降は若者も高齢者も減る人口減少です。その頃になると、自治体の評価は高齢者に優しまちかどかがポイントになります。医療・福祉介護・地域内交通が鍵でしょう」と。

今も地方の各市町村は、それぞれ若者や高齢者の優遇制度を立ち上げ、定住対策に熱心に取り組んでいます。一部にお隣同士で住民の取り合いをしているようなお話も聞きますが、広い目で見ると勝者のいない戦略です。

行政がどんな認識を持っているか、その認識の度合いで未来のまちの姿は全く別なものになります。仙北市の20年後の人口推計は約1万7千人、秋田県全体では60万人といわれています。特に今後の公共施設などの建設・改修は、社会が急速に縮小するイメージが描けないと判断を誤ります。



功労者表彰を受賞した佐藤和志さん。

功労者表彰を受賞

温泉保護や適正利用の普及に貢献

このたび、一般社団法人日本温泉協会（東京都）で理事を務める佐藤和志さん（有限会社鶴の湯温泉・代表取締役会長）が、第38回温泉関係功労者表彰を受賞されました。この表彰は温泉の保護や適正利用などで特に顕著な功績があった方を対象に環境大臣表彰を行っているもので、今回は全国から10個人が表彰されました。

佐藤さんは平成15年から同協会の理事を務め、温泉資源の保護と適正利用の普及活動に長年貢献されています。また、平成27年の秋田県温泉協会の設立にご尽力され、毎年講演会などを開いて普及活動をされています。

7月11日、田沢湖庁舎に報告に訪れた佐藤さんは「今回の受賞は乳頭温泉郷が全国に通用する知名度になったおかげだと思っています。秋田県は温泉の潜在能力がある。利用の仕方、宣伝の仕方でもっと知名度が上がる」と話しました。